

Reference

Oncogene C-fos Ab2	癌及び前癌病変 スクリーニング: 60ng(6点法) 局所では350ngから調べる
Integrin $\alpha 5\beta 1$	癌及び前癌病変 スクリーニング: 60ng(6点法) 局所では350ngから調べる
Acetylcholine Chloride	神経伝達物質として機能。興奮性シナプス伝達、骨格筋の収縮、内眼筋収縮、涙液唾液の分泌高進、心拍数減少、心房収縮力の低下、気管支収縮分泌高進、消化管の蠕動運動と分泌高進、膀胱壁収縮、PIF様作用 ※BDORTでは、500 μ g以下だと、脳の機能が正常に働いていないとしてAchを上昇させるようにする。正常な人の脳では、1.5mg以上、4mg以上の人もある。※癌では、1 μ g以下、最近、大村恵昭先生の研究では、1ag以下の人がいた。Achを上昇させるようにする。
Mercury (Hg)	癌組織> 30mg 電磁波過敏症の人でも沈着が多い Cilantro(中国パセリ)服用 正常組織 < 0.5 mg以下 ※癌では350mg以上を調べる
Lead (Pb)	脳の循環障害、自閉症、癌や前癌病変等で多いCilantro(中国パセリ)服用
Aluminium (Al)	Alzheimer 病, Parkinson 病、自閉症、電磁波過敏症等で多い Cilantro (中国パセリ)服用
Thromboxane B2	動脈硬化、狭心症、糖尿病。※BDORTでは、ThromboxaneB2の量が多いと循環障害があって、選択した薬剤が病巣に届きにくくなるので、Selective Drug Uptake Enhancement Methodで手の臓器代表領域を刺激して、薬が病巣に到達するようにする。500ng以上であれば、かなり循環障害があると判断する。
Substance P	疼痛物質。血管拡張、平滑筋収縮、唾液分泌亢進、運動ニューロンの脱分極作用。
Herpes Simplex Virus Type I	痛み、高血圧症、アルツハイマー病、自律神経障害、三叉神経節、仙骨神経節に潜伏感染
Herpes Simplex Virus Type II	痛み、性器ヘルペス、三叉神経節、仙骨神経節に潜伏感染
Cytomegalo virus(CMV)	糖尿病、HIV、癌等
Epstein Barr Virus (EBV)	Burkittリンパ腫, 上咽頭癌、Hodgkin病、鼻リンパ腫(T cell or NK cell), Natural Killer (NK) 白血病、一部の胃がんなど
Varicella Zoster Virus (VZV)	水痘(初感染)と帯状疱疹(潜伏感染ウイルスの再活性化), 脊髄後根神経節及び三叉神経節に潜伏感染し、再活性化すると帯状疱疹(herpes zoster)となる。
Human Herpes Virus Type 6	移植片拒絶、骨髄抑制、脳炎、間質性肺炎、突発性発疹、合併症(心筋炎・髄膜炎), BDORTでは、多くの頭部の疾患で反応する
Human Herpes Virus Type 7	移植片拒絶、骨髄抑制、脳炎、間質性肺炎、突発性発疹、合併症(心筋炎・髄膜炎)
HHV8	カポシ肉腫, 30% のHIV患者で出現, Primary Effusion Lymphoma(B細胞性リンパ腫), 多発性骨髄腫瘍
8-OH-dG	遺伝子の変異による損傷の度合いのチェック 活性酸素による損傷のチェック 葉酸(Folic Acid)が少ないと遺伝子の修復が進まない 大村教授は癌、心臓病、アルツハイマー病等、全ての疾患でチェックされている

Reference

Borrelia burgdorferi	Lyme病、Chlamydia-Lyme(Borrelia)-uric acid syndrome
Chlamydia trachomatis	性器クラミジア、網膜色素変性症、糖尿病、心臓病、アルツハイマー病
Chlamydia pneumoniae	動脈硬化、心筋梗塞、不整脈、アルツハイマー病
Helicobacter pylori	胃潰瘍、十二指腸潰瘍、胃炎、口腔疾患、心臓病 胃癌との関与 500ng以上: 強陽性
Telomere1(TTAGGG)	老化及び癌との関与。老化とともに低下し、癌の進行と共に増加する。正常化させるには、true ST36をマッサージ、灸等。現在の所110ng以下になると要精密検査。100ng以下ではHIVと癌が共存している例もある。110ngでスクリーニングして低値の場合は癌のパラメーターを測定する
Serotonin	うつ病、自閉症、慢性疲労症候群、脳の血管収縮。血管内のセロトニンが代謝されて急激に減少すると、反動で血管が拡張し、片頭痛が始まる。脳、松果体、血小板、腸のエンテロクロマフィン細胞に多く含まれる生理活性アミン、縫線核
Kyotorphin (Tyr-Arg)	内因性の疼痛のmodulator, 鍼の治療効果のパラメーター
Dopamine	神経伝達物質であり、アドレナリン、ノルアドレナリンの前駆体でもある。前駆体であるL-ドーパから生じる。脳内のドーパミン作動性ニューロン(隆起下垂体ドーパミン系、辺縁系ドーパミン系、黒質線条体ドーパミン系など)に含まれ、神経伝達物質として働く。パーキンソン病では、黒質のドーパミン値が低下している。腎臓では、ナトリウムイオンと水素イオンの交換の調節を行っている。うつ病
γ -Amino-n-Butyric Acid(GABA)	H ₂ N-CH ₂ -CH ₂ -COOH, 中枢神経系で抑制性神経伝達物質として働く、血圧降下作用、神経抑制作用
Norepinephrine	心臓; β 1作用は、epinephrineとほぼ同じである。しかし、代償性の迷走神経反射により陽性変時作用は弱くなる。血管: α 1刺激により皮膚や粘膜血管の収縮が起こる。しかし、 β 2作用はごく弱いので末梢血管抵抗を増加させるので、収縮期と拡張期血圧の両方を上昇させる。
Troponin T	心臓病のマーカー、心筋梗塞、心筋炎 参考値: 100ng(200ng) スクリーニング: 3ng
L-Homocystine	心臓病 スクリーニング: 3mg
Mycobacterium tuberculosis	結核菌 参考値: 1 μ g (10 μ g) 大村先生の発表では、癌の周りに混合感染していることが多い
Mycobacterium Avium	鳥型結核菌、tuberculosisとの混合感染に注意 参考値: 1 μ g(10 μ g) イスコチン服用
Human Papilloma Virus 18	子宮頸癌、子宮上皮内癌
Human Papilloma Virus 16	子宮頸癌、頭部腫瘍
β -Amyloid (1-42)	アルツハイマー病。スクリーニングは3ng。
β -Amyloid (1-40)	アルツハイマー病。 β -Amyloid(1-42)の約10倍の値。
Human Hepatitis C Virus Antigen	C型肝炎、肝硬変、肝細胞癌
Hepatitis B surface Antigen	過去にHBVの感染があったことを示す
Hepatitis B "e" Antigen	HBV感染の高危険性、HBV増殖のマーカー

Reference

Parvovirus B19	伝染性紅斑、成人では不顕性感染が多く、また有症者に見られる非特異的発疹は風疹感染時の発疹との鑑別が通常困難である。関節痛、ヘモグロビン低下、好中球減少症、汎血球減少症や敗血症などの症状、妊婦や溶血性貧血、免疫不全の患者では注意が必要
HIV1	human immunodeficiency virus I。※テロメアを調べて、低い人で調べます。Cancerとこのウイルスが共存している人がいるようです
HIV2	human immunodeficiency virus II
HTLV-1	Human T-cell Leukemia Virus - 1, 成人T細胞白血病(ATL)、白血病
Insulin like Growth Factor I	IGF-1は上皮細胞では細胞移動を、神経細胞では突起の伸長を誘導することが報告されている。骨の成長、乳癌、BDORTではchlamydiaの隠れ家増殖
Insulin like Growth Factor II	GH依存性に乏しくインスリン様作用が強い、chlamydiaの隠れ家が多い
Toxoplasma Gondii	Toxoplasma gondiiは、単細胞の原虫、人に寄生して、トキソプラズマ症という感染症を起こす。10-20%の人で、リンパ節が腫れたり、インフルエンザのような症状が出たりする。筋肉痛が、2、3日から数週間続くこともある。免疫不全の患者では、トキソプラズマに感染すると、中枢神経系の障害を生じることがあるが、心筋炎や肺炎を起こすこともある。エイズ患者では、トキソプラズマ性脳炎によって頭蓋内に病変を形成することがある。眼トキソプラズマ症は、眼の網脈絡膜炎の主要な原因の一つです
Glucose	血糖値のBDORTによるチェック。癌の部分では、Glucoseが通常の2倍以上に増えている。
Calcium	骨の部分のCalciumのチェック。骨折した部分のチェック。
p53(Ab-5)	癌抑制遺伝子の一つだが、この抗体(wild type)は、癌の部分で増加する。
Rb(Ab-8)	ガン抑制遺伝子産物であるレチノブラストーマ蛋白質(Rb)、網膜芽細胞腫。この抗体は癌で増加する。
CEA(Carcinoembryonic Antigen)	最も有名な腫瘍マーカー。ほとんどの癌でCEAが上昇する。
PSA(Prostate Specific Antigen)	前立腺癌に特異的な腫瘍マーカー。
AFP(α -fetoprotein)	肝細胞癌の腫瘍マーカー。肝硬変で上昇する。
NSE (Neuron Specific Enolase)	NSE (神経細胞(ニューロン:neuron)に特有のエノラーゼという酵素)は神経芽細胞腫、小細胞肺癌(癌)、ウィルムス腫瘍(しゅよう)(Wilms' tumor)、黒色腫、また甲状腺、腎臓、精巣、膵臓のがん(癌)を持った患者に検出される腫瘍マーカー
Anti-CA15-3	乳癌の腫瘍マーカー
Anti-CA125	卵巣癌の腫瘍マーカー CA 125値は子宮、子宮頸部、膵臓、肝臓、大腸、乳腺、肺、消化管のがん(癌)によっても上昇。子宮内膜症、骨盤炎症性疾患、腹膜炎、膵臓炎、肝臓疾患、胸膜(肺と胸腔を囲む組織)の炎症でも高値になる。月経と妊娠でも、CA 125が高値を示すことがある。子宮内膜症と子宮筋腫の鑑別にも用いられる
Troponin I	心臓病のマーカー、急性心筋梗塞、心疾患

Reference

Prion Protein	狂牛病(bovine spongiform encephalopathy:BSE),クロイツフェルト・ヤコブ病(CJD);伝達性海綿状脳症(TSE)の病原体;ゲルストマン・ストロイスラー・シャインカー症候群:GSS;クールー病;致死性家族性不眠症(FFI)
Mycoplasma pneumoniae	マイコプラズマ肺炎;非定型肺炎(atypical pneumonia);咽頭炎・気管支炎
Streptococcus A	A群β溶血性連鎖球菌(Group A Streptococcus : GAS : A群溶連菌) ;発熱、咽頭炎、扁桃炎、莓舌と菌が産出する外毒素による赤い発疹を認めるものを猩紅熱(しょうこうねつ)と言う。;伝染性膿痂疹(とびひ)
Streptococcus B	B群連鎖球菌(Group B Streptococcus : GBS)は、新生児、妊婦、老人、糖尿病・肝臓疾患の患者等で感染症を起こすことがある細菌;新生児における、敗血症や髄膜炎、肺炎の主要な原因菌の一つ
Staphylococcus Aureus	黄色ブドウ球菌(健康人でも20~40%の人が保菌)は、種々の病気に関連する強毒素を産生する菌として知られており、化膿性炎症や食中毒の原因菌
Prostaglandin I2	prostacyclin,血圧下降、血小板凝集抑制、cAMP上昇、胃酸分泌抑制、Na ⁺ 排泄増加作用
Prostaglandin H2	高血圧、血小板凝集誘起、動脈収縮、気管支収縮作用。
ANP	心房性ナトリウム利尿ペプチド。血管平滑筋弛緩に伴う血管拡張、血圧効果、副腎皮質に作用しアルドステロン合成抑制
BNP	脳(b-type)ナトリウム利尿ペプチド。心臓病のマーカーとしてTroponin Tと一緒に併用されています。
Angiotensin I	高血圧、Angiotensin IIの前駆体。アルドステロン分泌促進。
Angiotensin II	末梢動脈の受容体に作用して血管を収縮し、血圧を上昇させると同時に副腎皮質の球状層に作用してアルドステロンの分泌を促進する
Angiotensin III	高血圧(活性型)
Renin	アンギオテンシノーゲンをアンギオテンシンIIに変換する作用。
Bradykinin	知覚神経終末に作用し発痛(プロスタグランジン介在の可能性)、血管の拡張、回腸、子宮、気管支等の収縮
TGF-α	腫瘍細胞、単球。TGF-αは上皮増殖因子(epidermal growth factor; EGF)レセプターに結合し、生物活性を発現する。TGF-αの主な役割は、肝細胞、上皮細胞、ケラチノサイト、繊維芽細胞などの増殖促進、血管新生の促進、骨吸収の促進など。induces angiogenesis, keratinocyte proliferation, bone resorption, tumor growth
TGF-β1(transforming growth factor beta)	TGF-βレセプターにはI型レセプター(TβR-I)とII型(TβR-II)がある。TGF-βとTβR-IIが先ず結合して複合体を作り、さらにこの複合体にTβR-Iが結合して生物活性を発現する。主な作用は、線維芽細胞、平滑筋細胞のPDGF産生の促進、単球のTNF-αおよびIL-1産生誘導。上皮細胞、内皮細胞、血球系細胞などの増殖の抑制、小腸、ケラチノサイト、呼吸器系の上皮細胞や軟骨細胞の分化の誘導、骨芽細胞や筋芽細胞の分化の抑制。induces fibroblast proliferation; collagen and fibronectin synthesis; inhibits CTL, NK, LAK cells. Inhibits T-and B-cell proliferation; enhances wound healing and angiogenesis
TNF-α (Tumor Necrosis Factor)	TNF-αの主な作用は、腫瘍細胞の増殖抑制及び傷害。T細胞の増殖、IFN-γおよびCSF産生誘導、IL-2レセプター誘導。B細胞の抗体産生誘導。NK細胞の傷害活性増強。マクロファージのIL-1、IL-6、IL-8、CSF産生および遊走性誘導、好中球の遊走性および活性の促進。繊維芽細胞の増殖、PGE2およびコラゲナーゼ産生促進。滑膜細胞のプロスタグランディン産生およびコラゲナーゼ産生促進。破骨細胞による骨吸収促進。This prompts Macrophages and other Immune Cells, to release tissue-damaging, Oxygen-containing substances and ProstaGlandins to promote Inflammation

Reference

IFN- α	刺激されたB細胞、マクロファージ、繊維芽細胞、血管内皮細胞。IFN α とIFN- β はI型IFNレセプターと結合する。I型IFNレセプターはAR1鎖(機能的レセプター)とAR2鎖(IFN- α / β 結合鎖)とから構成されている。IFN- α およびIFN- β の主な作用は、ウイルス複製阻止、細胞増殖抑制、腫瘍増殖の阻止、マクロファージ活性化、クラスI およびクラスII主要組織適合遺伝子複合体(MHC)発現の増加、NK細胞の活性化など。
IFN- γ	刺激されたT細胞およびNK細胞。IFN- γ はII型IFNレセプターに結合する。II型IFNレセプターはGR1鎖(結合鎖)とGR2鎖(補助因子)とから構成されている。IFN- γ はIFN- α / β と似た生物活性を示す。主な作用は、抗ウィルス性、クラスI およびII主要組織適合遺伝子複合体(MHC)増加、マクロファージ活性化、NK活性上昇、抗腫瘍効果など。
Anti-IL-6	心臓病(心筋梗塞等)、Castleman 病、慢性関節リウマチ、Crohn 病など。T細胞、B細胞、単球、線維芽細胞、血管内皮細胞、繊維芽細胞など多数の細胞。PTH、ビタミンD、PGE2、IL-1、IL-11、TNFなどによる刺激によって骨芽細胞様ストローマ細胞からの破骨細胞分化因子(ODF)、M-CSF、IL-6の分泌が促進される。IL-6は破骨細胞前駆細胞の分化を促進し、骨吸収を促進する。IL-6の主な作用は、B細胞およびプラズマサイトの増殖誘導、IgG、IgMおよびIgA産生の増強、肝細胞による急性期タンパク質の産生誘導、ヘルパーT2細胞の分化誘導など。常時ストレスが強い生活を強いられると、血中に「インターロイキン6」(Interleukin-6)が急速に増え、これが体を病気になりやすくしているということがわかった。
Anti-IL-12	単球、マクロファージ、B細胞。T細胞およびナチュラルキラー細胞(NK細胞)の活性化およびIFN- γ 分泌を刺激する。ヘルパーT細胞からヘルパーT1細胞への分化および増殖を誘導し、IFN- γ 産生を促進する。SCF、IL-3と協調して造血幹細胞の分化および増殖を刺激する。
Epidermal growth factor receptor (EGFR)	EGFRはEGFやTGF α などの増殖因子が結合する細胞外ドメインとチロシンキナーゼ部位を有する細胞内ドメインとをもつ細胞膜貫通型の受容体である。通常EGFRはリン酸化を受けにくい一量体で存在しているが、EGFなどの増殖因子が結合すると二量体を形成し、細胞内のチロシンキナーゼATP結合部位にATPが結合することで自己リン酸化がおこる。EGFRの自己リン酸化によってPI3KやAKT, Ras, MAPKなどの蛋白質が連鎖的にリン酸化され、癌増殖シグナルが核へと伝えられる。その結果、癌細胞の増殖、血管新生、浸潤および転移の誘導、アポトーシスの抑制が起こり、癌が進展する。EGFRは血球系を除くほとんどすべての細胞に検出されており、表皮など多くの組織の基底細胞や線維芽細胞、尿細管上皮細胞、小腸吸収上皮細胞など多くの細胞にEGFRの発現が認められている。しかし、肺癌などの悪性腫瘍の一部では、正常細胞の数倍から数十倍のEGFR遺伝子の増幅とEGFRの過剰発現が認められるとの報告があり、十分な特異性が期待される。
Anti-asialo GM2(N-glycolyl GM2)	ガングリオシドGM2は、シアル酸を一つ含むスフィンゴ糖脂質で、特に脳、神経組織に多く含まれ、細胞の増殖・分化・癌化、細胞間認識、情報伝達、神経突起進展や免疫等の現象に重要な役割を果たしていると考えられています。ガングリオシドに含まれるシアル酸には、N - acetyl体とN - glycolyl体の二つが存在し、正常なヒトにおいてはN - acetyl体のみが存在しますが、 <u>癌化によってN - glycolyl体のシアル酸が発現すること</u> も知られています。
(CH ₃) ₂ Hg	dimethyl mercury CH ₃ HgCH ₃ 毛髪や魚中の有機水銀の検査・チェック

Reference

Anti Cycline E	使用目的:乳癌、消化器癌、大腸癌、子宮癌、卵巣癌等の良性、悪性の判別及び進行度のチェック 細胞周期を制御する分子ネットワークの一部であるサイクリンEの濃度。「細胞分裂に関わるタンパク質・サイクリンE、サイクリンD1、サイクリンD3、HER2/Neu濃度と死亡率の相関を乳癌患者395人を対象にして調べたところ、サイクリンEが高濃度の患者は低濃度の患者に比べて癌の診断後11年以内に死亡する確率が13倍高い」という研究結果が、2002年11月14日のNEJM誌に発表されました。
Adeno Virus Type 3	アデノウイルスは、アデノウイルス科に属するDNAウイルス。急性熱性咽頭炎(1・2・3・5・6・7型)、咽頭結膜炎(1・2・3・4・6・7型)、急性呼吸器疾患(3・4・7・11型)、肺炎(1・2・3・4・7型)、急性濾胞性結膜炎(3・4・7型)、流行性角結膜炎(8・11・19型)、胃腸炎(小児:1・2・3・4・7型) 耳鳴り・難聴
Paraquat	Bismethyl sulfate, C ₁₄ H ₂₀ N ₂ O ₈ S ₂ , Paraquat 農薬のチェック
VEGF (vascular endothelial growth factor)	VEGFは血管の内側にある内皮細胞の受容体に結合して、増殖を促す。がんがある程度大きくなって酸素不足になると、VEGFとその受容体が増加して血管新生が起こる。胎児期に血管をつくるだけではなく、病的な血管をつくるときにも作用している。また血管透過性亢進作用により癌性腹水の原因になるとも考えられている。糖尿病が進行すると網膜に新生血管ができるが、これにもVEGFが働いている。つまり、新しい血管をつくるタンパクである。低酸素状態によりその発現が誘導されることにより血管新生への重要な役割を担っているといえる。また血管新生のみならず、腫瘍、炎症性病変などにみられる浮腫のメカニズムを説明するうえで本因子の関与が強く示唆されている。
Measles Virus	麻疹ウイルスはヒトの麻疹(はしか:measles)の原因ウイルスである。麻疹ウイルスは患者の咳の飛沫、鼻汁などを介して健康人の気道や鼻粘膜に感染する。
Rubella Virus	妊娠中の母親および胎児の感染、先天性風疹症候群患児の確定、風疹脳炎
Candida Albicans	<i>Candida albicans</i> は皮膚・口腔・膣・糞便の常在菌。表在性と深在性がある。局所の湿潤・基礎疾患の存在などで日和見感染を起こす。
LP (a)	Lp(a)は動脈硬化の独立した危険因子として注目を集めているリポ蛋白です。リポ蛋白としての働きと共に血液凝固線溶系にも影響を与え、この両面より動脈硬化の発症・進展に関わると考えられています。LDLを構成するアポ蛋白B-100にアポ蛋白(a)が結合したものである。動脈硬化の独立した危険因子だが個人差が大。虚血性心疾患、脳血管障害、動脈硬化症。
PAI-1(Plasminogen activator inhibitor type 1)	PAI-1はtPA、uPA(活性)を特異的に阻害するセリンプロテアーゼインヒビターであり、plasminの生成を抑制します。PAI-1は立体構造の違いによりtPA、uPA阻害活性を示す活性型(active form)と示さない潜在型(latent form)があります。通常血漿中には20ng/mlのPAI-1が存在し、血管内皮細胞がPAI-1の主要な産生細胞であると考えられますが、肝細胞、megakaryocyte、脂肪細胞での産生も知られています。 PAI-1は急性期タンパク質であり、種々のサイトカイン・増殖因子により産生が亢進し、敗血症やDICにおける虚血性臓器障害の原因の一つとして考えられています。また、PAI-1遺伝子プロモータの一塩基置換による遺伝子多型が知られており、血漿PAI-1濃度の増加が明らかにされています。
Porphyromonas gingivalis	歯周病菌との関連が指摘されている疾患:細菌性心内膜炎、敗血症、虚血性心疾患、糖尿病、誤嚥性肺炎、低体重児出産(早産)、骨粗鬆症
Coxsackie Virus B3	1.気道症候群 2.心筋炎 3.心嚢炎 4.発疹性疾患 5.無菌性髄膜炎6.流行性筋痛症 心筋炎もまた心室性不整脈、心ブロックまたは急性心筋梗塞様の病状を引き起こすことがある。

Reference

A.actinomycetemcomitans(AaY4)	歯周病菌との関連が指摘されている疾患:細菌性心内膜炎、敗血症、虚血性心疾患、糖尿病、誤嚥性肺炎、低体重児出産(早産)、骨粗鬆症
PLGF (Placental Growth Factor Protein)	心臓病・心臓発作の新しいマーカー・placental growth factor protein(PLGF) 急性胸痛または急性冠症候群を発現した患者1,173人を対象にした調査から「PIGF(placental growth factor protein;ピーエルジーエフ)レベルが高い急性胸痛患者または急性冠症候群患者は、PIGFが低い人に比べて最初の症状発現から30日以内に死亡または心臓発作を起こすリスクがそれぞれ3.34倍、4.8倍高い」とわかりました。
Acetyl-L-Carnitine	アセチル-L-カルニチン(ALC)とは、L-カルニチンに関する天然アミノ酸のことですが、最近になって、年とともに少なくなる脳のレセプターの減少防止と、その増加に対して効能のあることが分かりました。ALCは、多量に使用することや、ヌートロピック製品との併用などで、老人性痴呆症の治療に使われています。また加齢によって蓄積するリポフスチンを取り除き、脳の働きを高めることも判明しています。使用によって短期間の記憶力が向上し、細部に注意が行き届くようになります。創造性、記憶力、学習能力、言語の流暢さを高めます。アセチル L-カルニチンは、脳内神経伝達物質であるアセチルコリンの分泌を活発にします。
IL-10(サイトカイン免疫制御)	MHC クラスII↓, MAC活性化の阻害, 抗原提示↓, B細胞増殖およびAb産生の刺激, 肥満細胞の刺激, THからTH2への転換。免疫抑制制度の評価。
Vitamin B12	※8-OH-dGをオーリングテストで低くしても、Vitamin B12がないと傷ついた遺伝子の修復がうまくいかないようです
Folic Acid(葉酸)	遺伝子の修復因子
Cu(銅)	研究目的により必要な量(mg、μg、ng、pg etc.)を選択して下さい。貧血、心不全、心臓機能障害、動脈硬化、ウイルス性肝炎、手足筋肉の不調と痛み ※ オーリングテストでは、Cuの量が多いと癌の血管新生に関係があったり、痛みのある所では、正常が μgだとするとng、pgレベルに低くなっています。
SARS(新型肺炎)	Severe Acute Respiratory Syndrome (SARS)
recombinant HBe Antigen	B型肝炎の抗原です
Thyroid Stimulating Hormone (TSH)	下垂体前葉から分泌され、甲状腺ホルモンの分泌を刺激する糖蛋白。甲状腺に異常がある場合、まず第一に測定される。甲状腺機能亢進症、バセドウ病、亜急性・無痛性甲状腺炎の急性期
Parathyroid Hormone (1-34)	副甲状腺ホルモン(PTH)は84個のアミノ酸より成るペプチドホルモンです。副甲状腺からは主に完全なPTH 分子(1-84PTH)として分泌されますが、血中には1-84PTHと同時に末梢組織で代謝を受けたさまざまなフラグメント(分解産物)が存在します。
Ubiquinone-10 (CoQ10)	通常の生活をしている限り、ヒトの血中CoQ10濃度は“個人の固有値”に維持され、日内や短期間内での変動は認められません。しかし、時間軸を人生の単位でとらえると、胎児期あるいは出生直後に最も低濃度を示し、20歳代で最も高濃度を示します。年齢を積むに従って低下すると考えられています。CoQ10欠乏傾向を示すとの報告がある疾患:糖尿病、腎不全、肝疾患(肝硬変 肝癌)、甲状腺機能亢進症、パーキンソン氏病、フェニルケトン尿症、ミトコンドリア異常など。上記疾患の他、スタチン系薬剤投与による高脂血症治療中の方や低血圧症の方で血中CoQ10が低値傾向を示すこと、激しい運動により血中CoQ10濃度が低下する場合があることが報告されています。抗酸化物質の一つであるCoQ10は、酸化ストレスマーカーとしてもその測定が有用である

Reference

Anti-Enterovirus (type70+71)	ポリオ、コクサッキー、エコー等を含み麻痺、無菌性髄膜炎、ヘルパンギーナ、手足口病、心筋炎など多くの疾患を生じる。70型は急性出血性結膜炎で分離され、まれに髄膜脳炎や麻痺が認められることがある。手足口病を引き起こすウイルスとして71型は知られる
Anti-Rotavirus (ロタウイルス)	冬季ウイルス性下痢症の代表的なもので、特に乳幼児を中心に発症する。散発性が多いが幼稚園や保育所、小学校などで流行することがある。脱水症等に注意すれば予後は良好である。このウイルスで汚染された食物を食べることにより食中毒を起こす可能性もあります。※USAで風邪がなかなか治らない人を調べると、エンテロウイルスまたはロタウイルスに感染している人が多いそう
Growth Hormone	ヒト成長ホルモン
Somatostatin (ソマトスタチン)	視床下部、胃・腸、自律神経系など広い分野に分布し、GH分泌抑制や各種消化管ホルモン分泌抑制など多様な作用を有する。現在、ソマトスタチン誘導体としては、酢酸オクトレオチドが、「消化管ホルモン産生腫瘍の諸症状の改善並びに成長ホルモン及びソマトメジン-C分泌過剰の諸症状の改善」の効能で製造承認を得ている。神経ペプチド(生理活性物質)の一種「ソマトスタチン」がネプリライシンの活性を上昇させ、Aβレベルを低下させることを発見しました。特に注目すべきことは、病原性の高いAβ分子種(Aβ42)のレベルを選択的に制御することです。(理化学研究所)ソマトスタチンはアルツハイマー病の大脳皮質で減少しており、ソマトスタチン受容体も減少しています。このことから、ソマトスタチンは知能との関連があると考えられています。また、抗精神病薬のハロペリドールは前頭葉皮質と海馬のソマトスタチンの感受性を下げます。抗てんかん薬のカルバマゼピンとバルプロ酸は海馬のソマトスタチン濃度を減少させます。ソマトスタチンはGABAと共存していることから、はいれんとも関係すると言われていました。高血糖で分泌
Ghrelin	グレリンは下垂体から成長ホルモンを分泌させるだけでなく、摂食促進作用を示すなどその生体調節機序の新たな側面が浮かび上がってきた。グレリンの脳室内および皮下投与により酸素消費量が抑制されることから、グレリンはエネルギー消費を抑制することで、体重を増加させることが分かった。胃のグレリンのmRNAの発現や分泌は絶食において上昇し、摂食においては低下した。このことから胃より分泌されたグレリンが中枢に空腹シグナルとして作用し、レプチンと拮抗的な関係になると考えられる。生体内分布 グレリンmRNAは胃に最も多く発現し、また腸管、膵臓、視床下部にもその発現が認められた。強力な成長ホルモン(GH)分泌促進作用 グレリンは局在臓器から分泌されて、血中を循環し、直接下垂体に働きGH分泌を促進す
GHRF (Growth Hormone Related Factor)	成長ホルモンから負のフィードバック 睡眠、タンパク食、運動、低血糖、ストレスで分泌↑
8-isoprostane(8-epi-PGF2α)(細胞膜の酸化損傷マーカー)	尿中8-isoprostaneが脂質過酸化の特異的な、高感度の指標であることが明らかになり、この測定が酸化ストレスの評価に用いられはじめている。8-isoprostaneの生成と細胞障害 8-isoprostaneは細胞膜の脂質二重層のリン脂質上またはLDL粒子のリン脂質でつくられ、phospholipase A2によって、エステル結合が水解されて遊離し、血中に入り尿中に分泌されるものと考えられている。細胞膜の脂質二重層のリン脂質のアラキドン酸が過酸化をうけると、細胞膜の構造および流動性に変化を生じ、細胞の障害がおけるといわれている。心血管リスク因子 心血管リスク因子、例えば長期的喫煙、糖尿病、高コレステロール血症などでは、酸化ストレスによって尿中8-isoprostane値が上昇するといわれている。心血管患者 呼吸器疾患 肝臓疾患 (動物実験によると、脂質過酸化は肝障害発生の重要な病因と考えられている。尿中8-isoprostane値は肝硬変で上昇し、疾患の重症度と相関するといわれている。またendotoxemiaとも直接相関するといわれている。) 神経疾患 (神経退行(変性)疾患、特にアルツハイマー(AD)およびパーキンソン病(PD)において酸化ストレス、脂質過酸化が、ある役割を果たしているといわれ、ADの初期に脂質過酸化、酸化ストレスが亢進していることが示唆される。)

Reference

Tau protein	タウは、微小管結合たん白質の一種で、脳のニューロン、グリアに発現しています。アルツハイマー病ではタウの過リン酸化による神経原線維変化の形成によりニューロンの変性が起こるものと考えられています。アルツハイマー病の他、ダウン症、パーキンソン病などの神経変性疾患においても、タウが発症に関与しているとの報告があります。ADの神経細胞死にtau蓄積が関係する可能性。アルツハイマー病にはいたらないのですが、普通の老化でも、このタウ蛋白は蓄積し、アルツハイマー神経原線維変化を形成します。一方、老人斑は、アミロイドベータ蛋白という、年齢とともに脳にたまっていくもうひとつのゴミからできていることが知られています。アルツハイマー病では、このタウ蛋白のゴミとベータ蛋白のゴミがどちらもたまるのが特徴なわけです。 異常値$\geq 7ng$
デハイドロエピアンドロステロン(DHEA)	副腎に由来する性ホルモンの中間代謝物。副腎皮質疾患の診断や鑑別に用いられる。主として副腎に由来するステロイド型性ホルモンの中間代謝物である。副腎皮質からは糖質、鉱質コルチコイドやデヒドロエピアンドロステロン (DHEA) などの性ホルモン (副腎アンドロジェン) が分泌されている。DHEAは17α-hydroxypregnenoloneより合成され、そのほとんど (99%以上) は硫酸抱合体 (DHEA-S) として存在している。3β-hydroxysteroid dehydrogenaseの作用で、DHEAはテストステロンの前駆物質であるアンドロステンジオンに転換される。 DHEAのほとんどが副腎に由来し、性腺からは微量な分泌にとどまるため、DHEA、DHEA-Sの測定はさまざまな副腎皮質疾患の診断や鑑別に有用である。加齢とともに変動がみられ、思春期に急激な増加をし20歳頃ピークを迎えるが、以後減少する。主にACTHに支配されるので早朝に高く、夜に低値という日内リズムをもつ。高値を示す病態 Cushing症候群、副腎腫瘍、先天性副腎過形成 (3β-hydroxysteroid dehydrogenase、11β-hydroxylase、21-hydroxylaseの欠損など)、異所性ACTH症候群 低値を示す病態 Addison病、先天性副腎低形成 (17α-hydroxylase欠損～低下症)